

機関番号：12101  
 研究種目：基盤研究(C)  
 研究期間：2007～2010  
 課題番号：19520191  
 研究課題名(和文) 英国18－19世紀予約購読出版と文芸サークルが女性詩人支援に果たした役割  
 研究課題名(英文) Patronage of British Women Poets by Subscription and Literary Circles in the 18-19<sup>th</sup> Century  
 研究代表者  
 小林 英美 (HIDEMI KOBAYASHI)  
 茨城大学・教育学部・准教授  
 研究者番号：70277862

研究成果の概要(和文)：本研究は、18－19世紀英国ロマン主義時代の女性詩人を支援した読者層の知られざる人脈の実態を、詩集の予約購読者一覧表の精緻な分析によって、具体的に明らかにした。詩人の地元から遠隔地へ拡大する予約購読者のネットワークが、作品を世に広く知らしめる原動力となっていた状況を、個々の事例の精査から示すことができた。つまり同時代の熱心な読者が文芸嗜好を創出していく背景の一端を解明することになったのである。

研究成果の概要(英文)：The research project shed light upon the less-known network of supporters of female poets in the age of British Romanticism by analyzing lists of subscribers attached to books they published. The network spread from their local communities to places where the poets were little-known, and created their literary fame. Case studies done in this project brought out a significant role of network of subscribers to the poets and a process of making the literary taste of the age by contemporary avid readers.

#### 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	400,000	120,000	520,000
2008年度	400,000	120,000	520,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	300,000	90,000	390,000
年度			
総計	1,600,000	480,000	2,080,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ語系文学

キーワード：英米文学、英国、18－19世紀、詩、女性詩人、予約購読出版、読者層、人脈

#### 1. 研究開始当初の背景

18世紀末から19世紀前半にかけての英国ロマン派時代の文学研究において、同時代の読者層と文学の相互関係を解明することの重要性が、近年一段と認識されてきている。これまでも受容理論や歴史主義理

論等の立場からこのテーマは研究されてきており、古くは Richard D. Altick の *The English Common Reader*(1957)、Jon P. Klancher の *The Making of English Reading Audience, 1790-1832* (1987) が

代表的なものであった。最近の受容理論の流れを組む研究では、例えば Lucy Newlyn の *Reading, Writing, and Romanticism* (2000) があり、歴史的事実研究では William St.Clair の *The Reading Nation in the Romantic Period* (2004) がある。

しかしながら、歴史的事実を基盤にした文学研究は、海外でもまだ充分とは言えず、St.Clair の前掲書においてさえも、ほとんど考察されていない研究課題はある。その一つが予約購読出版を中心にした読者層と文学の相互影響関係という課題であり、筆者が 1997-98 年に日本学術振興会特別研究員として英国オックスフォード大学に留学した際に基礎研究を開始し、若手研究 (B) でテーマにした課題でもある。

予約購読出版と文学との影響関係の研究は、ロマン派時代に先行する 18 世紀前半に関しては、貴族階級の役割と影響の観点からすでに研究されてきた。しかし 18 世紀末以降のロマン派時代については内外を問わずほとんど未開拓であった。ゆえに本研究は国際的にも意義のある課題と言える。そこで若手研究 (B) では、一次資料の収集とその精査を行なうと同時に、未着手の事例研究を行なった。事例研究は、文学史上主流の詩人に影響を及ぼしたマイナー詩人と読者層の相互関係を、一次資料から明らかにするものであった。具体的には、下層階級女性詩人 Ann Yearsley やスコットランド女性詩人 Joanna Baillie らの読者層と出版業者との相互関係を、予約購読出版の活用状況から考察するものであった。いずれの詩人も我が国では十分に研究されていなかったため、研究発表によって、上掲の詩人の文学的重要性を国内研究者に認知させる意義も果たせたと考える。また筆者が発題・司会進行を行なった 2006 年度イギリス・ロマン派学会大会シンポジウム

でも、本テーマの重要性を訴えることができ、その成果は後日公刊され、好評をえた。

## 2. 研究の目的

基盤研究 (C) では、若手研究 (B) を通じて明らかになった予約購読出版と文学愛好者・支援者の人脈の相互影響関係に着目した。予約購読出版を利用した詩人の支持基盤に、各地の文学愛好者の人脈がある事例が多く、読者と文学に及ぼした影響が頗る大きかったと推察されるからである。そこでスコットランドとイングランド (主にロンドン) の文学愛好者の人脈に限定して研究した。予約購読者の中に兩人脈に連なる者が明らかになれば、同時代文学支援者の具体的な全体像に迫ることにもなる。また事例研究には女性詩人を取りあげた。当時の女性の社会的地位は低く、女性作家の出版は支援者を必要とした。支援者群を核とする予約購読出版形式は、女性等の社会的弱者が経済的リスクを負わずに利用できたものであった。

本研究では、以上の 2 か所の支援者の人脈と女性詩人の相互関係を、予約購読出版の利用状況の分析から考究する。そして最終的には実証的な歴史的読者研究の立場から、スコットランド啓蒙主義が英国文壇に及ぼした影響を考察するものである。

## 3. 研究の方法

文学愛好者の人脈研究は、地域ごとに 2 年かける。各地域から 2 名以上の詩人を取り上げて立体的な結果を提示する。そのため、文学関連資料に加えて、社会史・文学関係の資料を補充しつつ、以下に提示したテーマを研究することになる。その研究成果は、各年度に学会発表し、研究者と意見交換する。なお研究の進展に伴い、研究を効率的に進めるた

めに、若干の変更を行なう可能性もある。具体的には、研究対象予定の詩人を、より適切な詩人に変更することが想定される。

(1) 19年度 ①予約購読出版に関わったスコットランド女性詩人、出版者、そして文学愛好家の人脈に関連する資料を収集。②対象の詩人に関する予約購読者の分析。独自に作成したデータベースの補完。新たに入手したデータを追加。③Baillie の作品と文学愛好家人脈の研究。④成果を学会で発表。

(2) 20年度 ①予約購読出版に関わったスコットランド女性詩人、出版者、そして文学愛好家人脈に関する資料収集。②対象詩集の予約購読状況の分析。データベースの補完。③Janet Little と Ann Grant の作品と、その支援者人脈の研究。④成果を学会で発表。

(3) 21年度 ①予約購読出版に関わった女性詩人、出版者、そしてロンドンの文学愛好家人脈に関連資料の収集。特に大英図書館やオックスフォード大学ボドリアン図書館での資料収集。これらの施設でしか収集できない一次資料を、19年度と20年度の研究を通して予備調査。②対象詩集の予約購読状況の分析。データベースの補完。③Helen Maria Williams と Charlotte Smith の作品とその支援者人脈の研究。④成果の学会発表。

(4) 22年度 ①予約購読出版に関わった女性詩人、出版者、そしてロンドンの文学愛好家人脈関連の資料収集。②対象詩集の予約購読状況の分析。データベースの補完。③Elizabeth Hands と Bentley 夫人の作品とその支援者の研究。④成果の学会発表。

#### 4. 研究成果

研究初年度である19年度は、予約購読出版に関わったスコットランド女性詩人、出版者、そして文芸サークルに関する基本文献の

調査・収集を実施すると同時に、若手研究(B)からの発展的研究として、スコットランド女性劇作家・詩人 Joanna Baillie とその読者層についての研究を深めた。Baillie と文芸サークルの関係についての研究は、新入手資料を参照しながら読者層データの整理を行なって研究を深めた。その成果は『読者の台頭と文学者』(世界思想社刊)として結実した。これは2006年度に他の研究者に呼びかけて実施した学会シンポジウム(イギリス・ロマン派学会全国大会、於鳥取大学)での発表原稿を、大幅に加筆修正したものである。

20年度は、19世紀初頭のスコットランド女性詩人 Ann Hunter、Ann Grant、Janet Little と、彼女たちを支援した読者層の人脈を明らかにした。その結果、前年度の Baillie だけでなく、詩人 Robert Burns や作家 Walter Scott に連なる人脈が具体的に明らかでき、さらには Grant の詩集の編集者で民謡集出版者の George Thomson が、広大な人脈の要と言えることが判明したので、次年度も継続的に研究することにした。

20年度研究成果の一部は、「詩人アン・グラントと19世紀初頭スコットランドの文芸サークル」(欧米言語文化学会、於日本大学文理学部)として発表し、Grant を一躍有名にした予約購読出版の意義を Thomson の思惑とスコットランド民族主義との関わり等を交えて明らかにした。

21年度は引き続き Grant と Thomson を中心にして、民謡集が啓蒙主義と民族主義等の政治的主張の伝播に果たした役割も考察する、学際性の高い研究となった。詩人周辺の文芸サークルや支援者も、思想の発信に関わっていたことが明らかになった。年度の初めに海外の図書館・資料館において、前年度までに必要性が判明した資料の収集を行ない、本年度の研究成果は「Mrs. Grant of Laggan

の"Killiecrankie"の政治性と読者網の国際性」(イギリス・ロマン派学会全国大会、於明星大学日野キャンパス)となった。

最終年度の22年度では、研究の補完と総括を行なうと同時に、成果を3つの学会で発表した。具体的には下記のとおりである。(1)詩人 Charlotte Smith と Helen Maria Williamsの予約購読者一覧表から、ロンドンの文芸サークルとその人脈についての研究の補完をした。その成果は「18世紀末女性詩人とその支援者—C.SmithとH.M.Williamsの事例を並列して」(イギリス・ロマン派学会全国大会、於大阪大学)となり、二人の女性詩人に共通する支援者を明らかにして、同時代ロンドンの文芸支援者とその人脈に新たな光を当てられた。この成果の一部を発展させたものが、筆者が企画したシンポジウム「拡大する読者ネットワーク：文学嗜好の共有が作り出す19世紀文芸思潮」(司会者兼発題者、欧米言語文化学会全国大会、於日本大学)である。他の2名の発題者に19世紀初頭英国と19世紀後期アメリカの文壇と読者層について論じてもらい、筆者は「予約購読者一覧にみる読者・支援者網の拡大：Helen Maria Williamsの『詩集』(1786年)の事例研究」で18世紀末の状況を論じ、18世紀末から19世紀の英語圏で拡大する文芸支援者の歴史的潮流を具体化できた。(2)スコットランドの文芸支援者とその人脈に関する研究を詩人Janet Littleを中心に行ない、成果は「スコットランド女性詩人とその支援者：ジャネット・リトルの事例」(日本カレドニア学会大会、於拓殖大学)として発表した。この研究ではBurnsとその周辺だけでなく、ロンドンの支援者層との関係も明らかにした。なお当初計画していたElizabeth HandsとBentley夫人についての研究は、基礎的な研究はできたが、発表には至っていない。

以上のように、予約購読者一覧表の分析研究は、読者のネットワークが果たした重要な役割と、同時代人が創出した文芸嗜好を、きわめて具体的に明らかにすることができるのである。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計5件)

- ① 小林英美、「予約購読者一覧にみる読者・支援者網の拡大：Helen Maria Williamsの『詩集』(1786年)の事例研究」、(シ

ンポジウム「拡大する読者ネットワーク：文学嗜好の共有が作り出す19世紀文芸思潮」司会者兼発題者)、欧米言語文化学会、2010年12月12日、日本大学

- ② 小林英美、「18世紀末女性詩人とその支援者—C.SmithとH.M.Williamsの事例を並列して」、第36回イギリス・ロマン派学会全国大会、2010年10月10日、大阪大学
- ③ 小林英美、「スコットランド女性詩人とその支援者：ジャネット・リトルの事例」、日本カレドニア学会2010年度大会、2010年9月18日、拓殖大学
- ④ 小林英美、「Mrs.Grant of Lagganの'Nilecrankie'と'Killiecrankie'の政治性と読者網の国際性」、イギリス・ロマン派学会第35回全国大会、2009年10月4日、明星大学
- ⑤ 小林英美、「詩人アン・グラントと19世紀初頭スコットランドの文芸サークル」、欧米言語文化学会第117回例会、2009年3月8日、日本大学

[図書] (計1件)

- ① 小林英美、清水一嘉、鈴木美津子、園田暁子、世界思想社、『読者の台頭と文学者』、2008年、147 - 192, 193 - 197.

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

小林 英美 (HIDEMI KOBAYASHI)  
茨城大学・教育学部・准教授  
研究者番号：70277862